

「ふね遺産」(応募様式) : A4 一枚に収め、それ以上は別途資料添付して下さい。

| No.(*)  | 内容   | 備考 |
|---|--|----|
| 1. 対象物・資料の名称・所属または所有者                         | 重要文化財「明治丸」: 鉄船時代の英国造船技術を今に伝える我が国に現存する唯一の帆船。明治天皇の御召船や燈台巡廻船として使用され、後に商船学校において多くの船員を育てた。<br>国立大学法人東京海洋大学  |    |
| 2. 対象物の作成・存在時期                                | 明治 7(1874)年 英国グラスゴーのネピア造船所で建造された補助帆付き双螺旋推進の鉄製汽船で、総トン数 1027.57 トン、船長 68.6m、幅 9.1m、深さ 6.9m、速力 11.5 ノットである。明治 8 年に日本へ回航され、灯台巡視船として使用され、その後練習船として本学に移管されました。現在は、国の重要文化財(昭和 53 年(1978)5 月 31 日)として東京海洋大学越中島キャンパスに保存され、現在に至る。  |    |
| 3. 現状<br>(写真添付)                               |   |    |
| 4. ふね遺産<br>認定基準の<br>該当項目<br>(**)              | 【認定対象】<br>(4)後世に伝承すべき重要な技術や事象を示す。<br>【認定基準】<br>(7)ふね関連技術と社会・文化の関係上重要な初めてまたは最古のもの。  |    |
| 5. 歴史的・<br>工学技術的<br>意義                        | 明治 7(1874)年英国グラスゴーネピア造船所で建造され、日本へ回航された後、約 20 年間燈台巡廻船として働き明治 29(1896)年本学に譲渡され係留練習船となり、以後昭和 20(1945)年までの 50 年間で約 5000 人の船員を育てた。昭和 53(1978)年に、我国に現存する唯一の鉄船であり鉄船時代の造船技術を今に伝える貴重な遺産として国の重要文化財に指定された。船内の明治天皇御座所周辺の豪華な装飾もほぼ当時のまま保存されている。船として重要文化財の指定を受けたのは初めてのことであった。<br>昭和 55(1980)年～昭和 63(1988)年にかけて本学と文化庁により保存復元工事が実施され明治 31(1898)年当時の姿に復元された。復元工事の際にも操業初期の八幡製鉄製鋼材が補強材として使用されていたこと等新たな事実が発見された。現在は毎週火・木曜日、第一・第三土曜日の 10～15 時(4～9 月は 16 時)まで公開。毎年「明治丸シンポジウム」を開催し明治丸啓蒙活動に努めている。 |    |
| 6. 参考資料・<br>文献(本表に<br>収まらない<br>場合は別途<br>添付する) | ・昭和 51(1976)年『東京商船大学百年史』発行: 東京商船大学百年史編集委員会<br>・昭和 57(1982)年『明治丸史』発行: 東京商船大学<br>・左舷立面図、上甲板・主甲板平面図、函館港烟花天覧図(錦絵)<br>・文化庁国指定文化財等データベース(平成 30 年 11 月 30 日閲覧)<br><a href="http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp?register_id=102&amp;item_id=555">http://kunishitei.bunka.go.jp/bsys/maindetails.asp?register_id=102&amp;item_id=555</a>   |    |

2019 年 3 月 4 日 / 4 月 22 日 : ふね遺産認定実行委員会にて一部修正